

(資料2)

安長寺山門 (あんちょうじさんもん)

員数：1棟

所在地：豊田市梅坪町

所有者：宗教法人安長寺

1 登録理由

安長寺山門

一間一戸の楼門で、上層に三尊仏を安置した。上層の組物¹彫刻に大工の技量の高さが見られる。
(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

2 概要

安長寺山門

木造、瓦葺、間口 3.9m、建設年代 天保3年(1832)

安長寺は、愛知県の北東部の豊田市内、豊田地区の梅坪町に所在する真宗大谷派の寺院である。加賀国大杉谷(石川県能美郡大杉谷村、現小松市)の城主・杉浦安長が文明9年(1477)に本願寺蓮如上人(1415～99)に帰依して正蓮坊と称し、三河国加茂郡高橋庄大島郷(現豊田市荒井町)に創始して、後に安長寺と号した。その後、度重なる水害のため梅坪村へ寺地を移し、享保頃(1716～36)に本堂が再建されたと伝えられ、寛延3年(1750)には鐘楼堂も再建されたが、宝暦13年(1763)の梅坪村の大火で諸堂は焼失した。火災後、再び寺地を移し(同じ梅坪村内)、安永2年(1773)頃に本堂が再建された。現存する山門は、棟札によって天保3年(1832)の建造と確認できる。

なお、本堂及び鐘楼堂は既に建替えられており、現在境内には山門の他に築後50年以上を経過した遺構は存在していない。

山門は一間一戸の楼門で、本堂の前に東を正面にして建つ。屋根は入母屋造で棧瓦葺、妻飾²は虹梁³大瓶束⁴で、組物に大工の技量の高さが見える。

この山門は楼門ではあるが、上層に鐘を吊る鐘楼門ではなく、上層内に仏壇を設け、かつては三尊仏を安置した仏堂としていた。このような楼門は真宗寺院では類例が少なく、多くの真宗寺院が存在する三河地方においても稀有な遺構であり、極めて貴重であるといえる。

組物¹：柱など軸部と小屋組の梁、桁等の間に設けられ、上部の荷重を軸部にスムーズに伝えるもの。

妻飾²：切妻造または入母屋造の屋根の妻部分(側面の三角形の壁面)の装飾。

こうりょう

虹梁³：梁の一種で虹のように反りがある。

たいへいづか

大瓶束⁴：瓶に似た装飾の束。

安長寺山門 東面正面全景
(豊田市教育委員会提供)

